

# ★えほん★

## 「しゃっくりくーちゃん」

竹下文子／文 岡田千晶／絵 白泉社 E3オカ

ねこのくーちゃんがあさごはんをたべているとき、しゃっくりがとびだした。あそびたいのにこまったな。おみずをのんだり、びっくりさせられてもとまらない。いろんなことをためしてみるんだけど…。どうやったらとまるかな。



# ★よみもの★

## 「うっかりの玉」

大久保雨咲／作 陣崎草子／絵 講談社 931オオ

階段をおりて台所の前まで来ると、ばあさまはなにをしにきたのか忘れてしまった。ひき返そうとすると、そこに青い着物の女の子が、ばあさまの落としたうっかりの玉をもってすわっていた。返してもらえれば思いだせそうなのだが。



# ★しらべもののほん★

## 「イスラームってなに？」

### シリーズ①イスラームのおしえ

長沢栄治／監修 後藤絵美／著 かもがわ出版 16

「イスラーム教」という言葉、テレビでよく聞くよね。どんな宗教か知ってる？この本では元の発音に近い「イスラーム教」と言っているんだけど、服装や礼拝のしかたなど、イスラーム教徒のひとびとが大切にしているものやことを知ることができるよ。

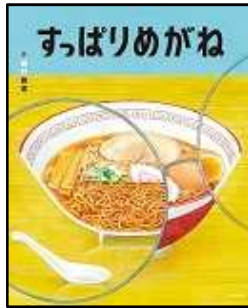


# あたらしい本のコーナー

## 「すっぱりめがね」

藤村賢志／作 教育画劇 E3フジ

ほくのもってるふしぎな「すっぱりめがね」。なんでもすっぱりなかがみが見えるんだ。かんづめだって、ふたをあけなくてもなかがみが見えるよ。ピアノのなかがみはどうなっているのかな？じどうしゃのなかがみはどうだろう？



## 「ひげじまん」

こしだミカ／作 小学館 E3コシ

なが〜いひげがじまんのおおなます。ほかのひげじまんとしょうぶしたくなった。じまんのひげをふりまわして、ブルーンと、いけをとびだした。さいしょにであったのは、くさをたべていた、やぎ。りっぱなしろひげだ。おおなますはさっそく、じまんしはじめるが…。



## 「ぴりかちゃんのフーツ」

さとうあや／文・絵 福音館書店 E3サト

「おたんじょうびにめしあがれ」ぴりかちゃんにしんせきのポンタおじさんからブーツッキーがおくられてきた。あんまりにもきれいなので、てにもってながめていたぴりかちゃん。「だいじだからもっていこう」となりのロクとふたりでいえをでた。



## 「唐木田さんち物語」

いとうみく／作 平澤朋子／画 毎日新聞出版

931イト

5年生の志朗のうちは、両親と8人兄弟の大家族。みんなにはめずらしがられるけど、何かとめんどくさい。ある日、長女いち姉に結婚の話がもちあがり、家族は増えるものと思っていた志朗はちょっととまどう。



## 「こんどんじいちゃんの裏庭」

村上しいこ／作 小学館 931ムラ

悠斗のじいちゃんは車にはねられて、ずっと眠ったままになった。事故の真相がわからないまま、怖い大人の言うとおりにしないと聞けないの？そんなある日、じいちゃんが裏庭に現れて…。



## 「わたしも水着をきてみたい」

オーサ・ストルク／作 ヒッテ・スパー／絵 きただいえりこ／訳 さ・え・ら書房

932スト

ファドマは、アフリカのイスラーム教の国ソマリアからスウェーデンに引っ越してきた。プールの授業はいつも見学。ソマリアでは女子は男子と一緒に泳がない、ときまっているから。



## 「数え方のえほん」

高野紀子／作 あすなろ書房 81

日本語には、物の数え方がたくさんあるよ。マグカップは「一個」だけれど、お皿つきのカップは「一組」「一客」。雨つぶは「一滴」「一雫」だけれど、傘やガラスをつたと「一筋」になる。身の回りのいろいろな物を数えてみよう。



## 「ねだんをつかない子犬 きららのいのち」

今西乃子／著 浜田一男／写真 岩崎書店 64

捨て犬だったきらは、「母ちゃん」にももらわれて、とてもだいにされている。でも、よぼうちゅうしゃのためいったびょういで、じぶんはたんじょうびも種類もわからない、ねだんもつかない犬だと知ってショックをうけた。



## 「文様えほん」

谷山彩子／作 あすなろ書房 72

縄文土器の渦巻き模様。五円玉についている稲のデザイン。サッカーボールの五角形。着物の美しい柄。これらはみんな「文様」というよ。自然をデザインしたもの、季節をあらわしたもの、外国から伝わってきたもの。町の中には文様がいっぱい。キミも探してみよう！

